２０２３年8月

『　植物少女　』

～植物状態の母と娘の物語～

朝比奈　秋

『植物少女』は、第36回『三島由紀夫賞』を受賞した、今、注目されている作家、朝比奈秋さんの小説です。植物状態で病院で寝たっきりの母と、その母に会いに行く娘・美桜との交流を描いた異色作です。

本のカバーには、町田そのこさんが「生きるとは何かを問う、静かな衝撃作」、と書かれていました。

この本を読むと、今まで勝手に思っていた植物状態の人間に対する認識がまったく違っていたことに驚かされます。植物状態の人間は、けっして生きる屍ではないということが、主人公の少女が私たちに教えてくれます。

朝比奈秋さんが現役の医師であり、医師としてそうした患者に接してきた実際の経験があるからこそ、読み手にそのリアルさが本当によく伝わってくるのだと思います。

朝比奈さんは、３０代になって小説を書くようになるまで、ほとんど小説は読んでこなかった人間と自ら語っていて、小説を書くようになるまではお金をだして小説の本も買ったことがなかったとも言っています。

そんな彼ですが、ある日突然、手術をしていると小説のストーリーが勝手に浮かんできて、小説を書くようになってしまったと、あるラジオ番組で語っていました。

読み終えて、「生きる」ということに対して、思いもしなかった視点で描かれていることが新鮮であり、また重く感じた作品でした。

現在４１歳、小説を書き始めて数年しか経っていないということですが、医師として働きながら小説を書き続ける、才能溢れる朝比奈さんに、今後の作品にも期待したいものです。